

## 2021年度 第一回 阪大本番レベル模試 国語(文) 採点基準

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ 現代文(評論) 採点基準(合計40点)

問一 9点

(模範解答例)

A〇一点

漱石が、

B①〇一点

B②〇一点

明治というあわただしい新時代の深所で起こっていた 旧い文化的教養と価値秩序の崩壊を

全身に体験し、

C①〇一点

C②〇一点

その過程で「孤」なる「個」の悲惨さを 見てしまった作家として、

Xへ分析〓分けること〓〇一点

D①〇一点

D②〇一点

われわれ日本人が持ちえた近代小説家の ほとんど唯一の存在であること。

Yへ総合〓まとめること〓〇一点(9点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、Aを、〈因果関係〉ともいうべき〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〓〉として説明して行く構造への評価である。ここでは、条件A、条件Bの要素が少なくとも一つ、条件Cの要素が少なくとも一つ、の内二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

Xへ分析〓分けること〓 〈A、Bの要素、Cの要素〉の内二つ以上 〇一点

・Yは、条件B、Cを条件Dに〈総合〓まとめること〓〉する構造への評価である。ここでは、Dの要素が必ず少なくとも一つあって、加えてBの要素とCの要素のどちらかが少なくとも一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

Yへ総合〓まとめること〓 〈Bの要素、Cの要素〉の少なくともどちらか一方+Dの要素 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士で、また条件B、C、D内の要素同士でも、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点)

A 「漱石が、」(1点)

※ 傍線部を説明するための〈主体〉明示の条件。

× 「漱石」の成分が入っていなければ×0点。

B 「明治というあわただしい新時代の深所で起こっていた旧い文化的教養と価値秩序の崩壊を全身に体験し、」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、傍線部「正面から時代の問題を引き受け」に相当する条件(〈因果関係〉の〈因〉の条件ともいえる)。

① 「明治というあわただしい新時代の深所で起こっていた」の要素に1点。

○ 「明治という激変する時代の奥で起こっていた」「あわただしく変化してゆく明治の時代の中で」などでも可。

× 「明治というあわただしい時代」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「旧い文化的教養と価値秩序の崩壊を全身に体験し、」の要素に1点。

○ 「旧い価値の崩壊を全身で体験し、」「旧い文化の教養が崩れて行ったのを一心に受け止め」などでも可。

× 「旧い文化的教養あるいは古い価値あるいは文化的秩序の崩壊を体験」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「その過程で『孤』なる『個』の悲惨さを見てしまった作家として、」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、傍線部「その重みに耐えた作家」に相当する条件(〈因果関係〉の〈果〉の条件ともいえる)。

① 「その過程で『孤』なる『個』の悲惨さを」の要素に1点。

○ 「そこで『個』が『孤』である悲惨さを」「その中で『孤』としての『個』の無残さを」などでも可。

× 「『孤』である『個』の悲惨さ」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「見てしまった作家として、」の要素に1点。

○ 「観てしまった作家として」「見果てた作家として」などでも可。

× 「見て(観て)しまった作家」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

D 「われわれ日本人が持ちえた近代小説家のほとんど唯一の存在であること。」

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「われわれ日本人が持ちえた近代小説家の」の要素に1点。

○ 「われわれ日本人の中から出た近代小説家の」「日本が生んだ近代小説家の」などでも可。

× 「日本人が持ちえた近代小説家」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点

② 「ほとんど唯一の存在であること。」の要素に1点。

○ 「ほほ唯一無二の存在であること。」「稀有な存在であること。」などでも可。

× 「ほとんど唯一の存在」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

問二 二点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

『道草』『ころろ』『門』のような作品の中で、必ずしも小説の主題と直接結びついて

いるのではない、さほど印象に残らないような細部に、

B①〇一点

B②〇一点

あのかんしゃく持ちで、不幸で暗い作家であり、知力と意志力と学識を兼ね備えた巨人で

X〈分析〓分けること〉〇一点

ありながら、

C①〇一点

C②〇一点

われわれの上にはなく、「尋常なる士人」としてわれわれの傍にいる、

C③〇一点

C④〇一点

つまり人と人の間にいることで示している、安息を感じさせる優しさ。

Y〈分析〓分けること〉〇一点 Z〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇一点 (二点)

【構造点】

・Xは、条件B内部を、「漱石」について〈矛盾〉しない二要素B①、B②に〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。ここではB①、B②がそろっていれば、この構造が成立しているとみて一点加算。

X〈分析〓分けること〉 B①+B② 〇一点

・Yは、条件C内部で、「漱石」について、〈C①+C②+C③〉とC④の〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二部分に〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。ここでは、〈C①、C②、C③〉の少なくとも一つの要素と、C④があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Y〈分析〓分けること〉〈C①、C②、C③〉のいずれか+C④ 〇一点

・Zは、傍線部を説明すべく、Aに表れる「漱石」の在り方を、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、B、Cの要素の内二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Z〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二つ以上 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 『道草』『ころろ』『門』のような作品の中で、必ずしも小説の主題と直接結びついているのではない、さほど印象に残らないような細部に、「」(3点)

※ 傍線部を説明するための話題の条件。

① 『道草』『ころろ』『門』のような作品の中で、「」の要素に一点。

○ 『道草』や『ころろ』などの作品の中で、「」『ころろ』『門』のような作品の内部で、「」などでも可。

× 『道草』『ころろ』『門』の内の成分のニュアンスが少なくとも一つ入っていない場合は×0点。

② 「必ずしも小説の主題と直接結びついているのではない、さほど印象に残らないような細部に、「」の要素に一点。

○ 「さほど印象に残らず、小説の主題と直接結びついているとも思われぬ細部に、「」小説の主題に結び付いているとも思われず、さっと読んでしまうような細部に、「」などでも可。

× 「小説の主題に直接結びつかない細部」あるいは「印象に残らない細部」のニュアンスの成分がはいっていない場合は×0点。

B 「あのかんしゃく持ちで、不幸で暗い作家であり、知力と意志力と学識を兼ね備えた巨人でありながら、」(2点)

※ Aに関して、「漱石」を評する一方の条件。

① 「あのかんしゃく持ちで、不幸で暗い作家であり、」の要素に一点。

○ 「例のごとくかんしゃくもちで陰鬱な作家であり、「あのかんしゃく持ちで、暗く不幸な作家であり、」などでも可。

× 「かんしゃく持ちの作家」あるいは「不幸で暗い作家」のニュアンスの成分が入っていない場合は×0点。

② 「知力と意志力と学識を兼ね備えた巨人でありながら、」の要素に一点。

○ 「知恵、意志、知識を身に備えた巨大な存在である一方で、「知力、意志力、学識の全てに秀でた大人物でありながら、」などでも可。

× 「知力、意志力、学識を兼ね備えた巨人」のニュアンスの成分が入っていない場合

ば×0点。

C 「われわれの上ではなく、『尋常なる士人』としてわれわれの傍にいる、つまり人の間にいること以示している、安息を感じさせる優しさ。」(4点)

※ Aに関して、Bとは〈矛盾〉する条件。

① 「われわれの上ではなく、」の要素に1点。

○ 「われわれの上には立たず、」「われわれの上位に身を置くのではなく、」なども可。

× 「われわれの上にいる」の否定のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 『尋常なる士人』としてわれわれの傍にいる、」の要素に1点。

○ 『尋常なる士人』の姿でわれわれの近くにいる」「尋常なる士人』としてわれわれに接する」などでも可。

× 『尋常なる士人』として傍にいる」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「つまり人と人の中にいること以示している、」要素に1点。

○ 「あるいは人々の中にいること以示している、」「つまり人々の間に位置することで醸し出している、」などでも可。

× 「人と人の中にいること以示す」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

④ 「安息を感じさせる優しさ。」の要素に1点。

○ 「ほっと息がつけるような安息を感じさせるところ。」「微光のようににじみ出ている優しさ。」などでも可。

× 「安息を感じさせるところ」あるいは「優しさ」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

問三 11点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

日本の近代作家の大多数は、

故郷の煩わしい家族関係や因習を振り切り、ひとりになっ

A③〇一点

て自己実現をしようとした、「出て来た」作家であり、

現実の悲惨さ、道徳上の不毛さを視

Xへ分析〓分けること〓〇一点

野に入れることができなかったが、

B①〇一点

B②〇一点

B③〇一点

漱石は、

「遠い所」、つまり自己追求の場から「帰って来た」作家であり、

そこが狂気

と死しかもたらさぬのを淋しさと共に熟知していたので、

B④〇一点

B⑤〇一点

小説を書く意味を、一方で人と人の上に立って他人に手を伸ばすこと、

他方で個体を超え

Yへ分析〓分けること〓〇一点

た生の根源に戻ることに求めていたから。

Zへ分析〓分けること〓〇一点 (11点)

【構造点】

・Xは、条件A内で、A①を、A②とA③の〈因果関係〉をなす、〈矛盾〉しない二部分に〈分析〓分けること〓〉して説明して行く構造への評価である。ここでは、A①、A②、A③の中の二つ以上の要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Xへ分析〓分けること〓 〈A①、A②、A③〉の中の二つ以上 〇一点

・Yは、条件B内で、B①を、〈B②+B③〉と〈B④+B⑤〉の〈因果関係〉をなす、〈矛盾〉しない二部分に〈分析〓分けること〓〉して説明して行く構造への評価である。ここでは、B①、〈B②、B③〉、〈B④、B⑤〉の三部分の内の二部分の要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Yへ分析〓分けること〓 〈B①、B②、B③〉、〈B④、B⑤〉の三部分の内の二部分以上の要素 〇一点

・Zは、傍線部の理由を説明するために、二種の作家である、条件Aと条件Bに〈分析〓分けること〓〉(対比〓比べること〓)と理解してもよい)する構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。



Zへ分析II分けること Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士、また各条件内でも要素同士において、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 「日本の近代作家の大多数は、故郷の煩わしい家族関係や因習を振り切り、ひとりになって自己実現をしようとした、『出て来た』作家であり、現実の悲惨さ、道徳上の不毛さを視野に入れることができなかったが、」(3点)

※ 傍線部のようにいえる理由を説明するための、「批判対象」の条件。

① 「日本の近代作家の大多数は、」の要素に1点。

※ 条件Aにおける〈主体〉の要素。

○ 「近代日本作家の大部分は、」明治以後の日本の作家の非常に多くは、」などでも可。

× 「日本の近代作家の大多数」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「故郷の煩わしい家族関係や因習を振り切り、ひとりになって自己実現をしようとした、『出て来た』作家であり、」の要素に1点。

※ A①を〈因果関係〉で説明する〈因〉の要素。

○ 「故郷の家族や因習から離脱し、ひとりで自己実現を企てる『出てきた』作家であり、」故郷の家族関係や因習を捨て、個人の自己実現を図る『出てきた』作家であり、」などでも可。

× 「故郷の家族関係や因習の否定し、自己実現を目指す『出てきた』作家」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「現実の悲惨さ、道徳上の不毛さを視野に入れることができなかったが、」の要素に1点。

※ A①を〈因果関係〉で説明する〈果〉の要素。

○ 「現実的な悲惨さ、道徳的不毛さを自覚することができなかったが、」現実の惨たらしさ、道徳的な退廃を客観視できなかったが、」などでも可。

× 「現実の悲惨さ、あるいは道徳上の不毛さへの無自覚」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点

B 「漱石は、『遠い所』、つまり自己追求の場から『帰って来た』作家であり、そこが狂気

と死しかもたらさぬのを淋しさと共に熟知していたので、小説を書く意味を、一方で人と人の間に立って他人に手を伸ばすこと、他方で個体を越えた生の根源に戻ることに求めていたから。」(5点)

※ 傍線部のように言う理由を説明するための、「漱石」の条件。

① 「漱石は、」の要素に1点。

※ 条件Bにおけ、〈主体〉の要素。

× 「漱石」の成分が入っていないければ×0点。

② 『遠い所』、つまり自己追求の場から『帰って来た』作家であり、「」の要素に1点。

※ B①を〈因果関係〉で説明する〈因〉の要素の一つ。

○ 「孤独な自己追求が何かをもたらすと信じられた場所から『帰って来た』作家であり、「他人から遠く離れて自己実現を目指す場所から『帰ってきた』作家であり、」などでも可。

× 『自己追求』の場から『帰ってきた』作家」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「そこが狂気と死しかもたらさぬのを淋しさと共に熟知していたので、「」の要素に1点。

※ B①を〈因果関係〉で説明する〈因〉のもう一つの要素。

○ 「その場には狂気と死しか待っていないことを淋しみとともに知り抜いていたので」「その場所が狂気と死にしかつながっていないことを淋しく悟っていたので、」などでも可。

× 「そこが狂気と死につながっている」「淋しさをもって熟知」のニュアンスの成分がそろっていないければ×0点。

④ 「小説を書く意味を、一方で人と人の間に立って他人に手を伸ばすこと、「」の要素に1点。

※ B①を〈因果関係〉で説明する〈果〉の要素。

○ 「小説を書く動機を、一方で人々の間にあって他者に手を差し伸べること、「小説を書く理由の一つを、人々の中に合って、他人に手を差し出すこと、「」などでも可。

× 「小説を書く意味」「人々の中にある他人に手を伸ばすこと」のニュアンスの成分がそろっていないければ×0点。

⑤ 「他方で個体を越えた生の根源に戻ることに求めていたから。」の要素に1点。

※ B①を〈因果関係〉で説明する〈果〉のもう一つの要素。

○ 「もう一方で個体のワクを越えた生の原点に回帰することを求めていたから。」「他方で個体の次元を越え出た生の根本に戻ろうとすることにあつたから。」などでも可。

× 「個体を越えた生の根源に戻る」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問四 9点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

「近代」の実現間近い現代において、「自我の解放」の代償に不毛の孤独に陥ったわれ

われを、

B〇一点

一層身近に感じられるようになった作品によって、

C①〇一点

C②〇一点

漱石が「尋常なる士人」として、スティックだが優しい心で導く、

X〈分析Ⅱ分けること〉〇一点

D〇一点

D②〇一点

Y〈総合Ⅱまとめること〉〇一点

他人と交わる所にある 根源的な道徳的世界。(9点)

【構造点】

- ・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aへの「漱石」の働きかけを、B、Cの〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉として説明して行く構造への評価である。ここでは、Aの要素、B、Cの要素の内の二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点点
- X〈分析Ⅱ分けること〉 〈Aの要素、B、Cの要素〉の内の二つ以上 〇一点

- ・Yは、B、CをDに〈総合Ⅱまとめること〉として結論づける構造への評価である。ここでは、条件B、条件Cの要素、条件Dの要素の内、二つ以上があれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点点。

Y〈総合Ⅱまとめること〉

〈B、Cの要素、Dの要素〉の内の二つ以上 〇一点

◎ 採点のポイント

- ※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、C、D内の要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

- ※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点点する。(2点満点)

A 『近代』の実現間近い現代において、『自我の解放』の代償に不毛の孤独に陥ったわれを、「(2点)

※ 傍線部を説明するための、「漱石」による働きかけの対象の条件。

① 『近代』の実現間近い現代において、「」の要素に一点。

○ 『近代』が実現しかけているとされる今日において、「」『近代』の完成間近と言われる現在において、「」などでも可。

× 『近代』の実現間近の現代」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『自我の解放』の代償に不毛の孤独に陥ったわれを、「」の要素に一点。

○ 『自我の解放』のかわりに不毛な孤独を背負わされたわれわれを、「」自我が解放された代償として不毛な孤独に捕らわれてしまったわれわれを、「」などでも可。

× 『自我の解放』の代償に不毛な孤独に陥ったわれわれ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「一層身近に感じられるようになった作品によって、「(一点)

※ 傍線部を説明すべく、Aに対する「漱石」の働きかけを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

○ 「ますます広く愛読されている作品によって、「」一層親しみを感じさせる作品によって、「」などでも可。

× 「身近になった作品」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「漱石が『尋常なる士人』としてストイックだが優しい心で導く、「(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aに対する「漱石」の働きかけを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

① 「漱石が『尋常なる士人』として」の要素に一点。

○ 『尋常なる士人』の姿の漱石が「」『尋常なる士人』の姿勢にある漱石が「」など可。

× 「漱石」『尋常なる士人』の成分が入っていないければ×0点。

② 「ストイックだが優しい心で導く、「」の要素に一点。

○ 「ストイックな、しかし優しい心を開いて導く、「」真摯な、だが優しくもある心で導く、「」などでも可。

× 「ストイックだが、優しい心で導く」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「他人と交わる所にある根源的な道德的世界。」(2点)

※ B、Cをまとめて結論づける、核心的な条件。

① 「他人と交わる所にある」の要素に一点。

○ 「他人と交流するところに成立する」「他者に交わることで立ち上がる」なども可。

× 「他人と交わる所に成立」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「根源的な道德的世界。」の要素に1点。

○ 「根本的で道德的な世界。」「基盤となる道德世界。」などでも可。

× 「根源的あるいは道德的な世界。」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

□ 現代文（小説）採点基準（合計35点）

問一 7点

（模範解答例）

A①〇一点

A②〇一点

兄のザムザの部屋から、

大きな虫がはいまわっているような音がしてくるし、それに

A③〇一点

A④〇一点

獣のような声も聞こえてくるので、

恐ろしくなったのもあるが、

B①〇一点

ザムザが、もしなにか悪い夢でもみてそのまま虫がなんかに変身してしまったのなら、こ

B②〇一点

X〈分析〓分けること〉〇一点

の上なく哀れでかわいそうにも思えてきたから。（7点）

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明してゆく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士、また各条件内の要素同士においても、原則的に部分採点可能。（6点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加算する。（1点）

A 「兄のザムザの部屋から、大きな虫がはいまわっているような音がしてくるし、それに獣のような声も聞こえてくるので、恐ろしくなったのもあるが、」（4点）

※ 傍線部の理由説明をするための一方の条件。

① 「兄のザムザの部屋から、」の要素に一点。

X 「兄あるいはザムザの部屋」ニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「大きな虫がはいまわっているような音がしてくるし、」の要素に一点。

○ 「巨大な虫が動き回っているような音がしているし、」「大きな虫が這いずり回っ

ているような音が響いてくるし、」などでも可。

× 「大きな虫がはいまわる音」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「それに獣のような声も聞こえてくるので、」の要素に1点。

○ 「さらに獣の声のような音も聞こえてくるため、」その上獣が吠えているような声もきこえてくるから、」などでも可。

× 「獣の声」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

④ 「恐ろしくなったのもあるが、」の要素に1点。

○ 「怖くなったのもあるけれど」「恐怖を感じたのもあるけれど、」などでも可。

× 「恐ろしい」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

## B

「ザムザが、もしなにか悪い夢でもみてそのまま虫かなんかに変身してしまったのなら、この上なく哀れでかわいそうにも思えてきたから。」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「ザムザが、もしなにか悪い夢でもみてそのまま虫かなんかに変身してしまったのなら、」の要素に1点。

○ 「ザムザが、悪い夢を見てしまったためにそのまま虫に変身してしまったというのなら、」「ザムザが悪夢のせいそのまま虫になってしまったのなら、」などでも可。

× 「ザムザが悪夢を見て虫に変身」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「この上なく哀れでかわいそうにも思えてきたから。」の要素に1点。

○ 「ひどいことでかわいそう過ぎると思ったから。」「とてもかわいそうに感じられたから。」などでも可。

× 「かわいそう」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

問二 10点

(模範解答例)

A ①〇一点

A ②一点

A ③〇一点

自分が行商に行って稼げなくなったので 家族の生活が立ち行かなくなるのを

申し訳な

いと思う一方で、

B ①〇一点

B ②〇一点

自分が虫になったという噂を聞いて、好奇心を持って訪問してくる人々が、

家族の気持ち

B ③〇一点

を理解し、 またお見舞いや餌代として家族にお金をおいていってくれるよう、

ひたすら

B ④〇一点

X へ分析 〓 分けること 〓 〇一点

虫らしい様子をみせておこうと思う

C 〇一点 Y へ総合 〓 まとめること 〓 〇一点

気持ち。(10点)

【構造点】

・Xは、傍線部におけるザムザの心情を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析 〓 分けること 〓 して説明して行く構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この構造が成立しているとみて一点加算。

X へ分析 〓 分けること 〓 Aの要素+Bの要素 〇一点

・Yは、条件A、BをCに〈総合 〓 まとめること 〓 して行く構造への評価である。ここでは、Aの要素またはBの要素があつて、かつCがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみて一点加算。

Y へ総合 〓 まとめること 〓 へAの要素、Bの要素 〓 の少なくとも一方+C 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「自分が行商に行って稼げなくなったので家族の生活が立ち行かなくなるのを申し訳な



いと思う一方で、」(2点)

※ 傍線部におけるザムザの心情を説明するための一方の条件——〈因果関係〉の〈因〉と理解してよい——。

① 「自分が行商に行つて稼げなくなったので」の要素に1点。

○ 「自分が行商に出て稼げなくなったので」「自分が行商に行けなくなり、稼ぐことができなくなったため」などでも可。

× 「自分が行商に行けず稼げない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「家族の生活が立ち行かなくなるのを」の要素に1点。

○ 「家族が生活を維持できなくなることを」「家族が生活できなくなるのを」などでも可。

× 「家族の生活が破綻」の成分が入っていないければ×0点。

③ 「申し訳ないと思う一方で、」の要素に1点。

○ 「すまないと思う一方で、」「謝りたいと感じる一方で、」

× 「申し訳ない」のニュアンスの成分がはいっていないければ×0点。

B 「自分が虫になったという噂を聞いて、好奇心を持って訪問してくる人々が、家族の気持ちを理解し、またお見舞いや餌代として家族にお金をおいていってくれるよう、ひたすら虫らしい様子を見せておこうと思う」(4点)

※ 傍線部におけるザムザの心情を説明するための他方の条件——〈因果関係〉の〈果〉と理解してよい——。

① 「自分が虫になったという噂を聞いて、好奇心を持って訪問してくる人々が、」の要素に1点。

○ 「噂で自分が虫になったことを聞き、様子を見に来る人々が、」「噂で聞きつけて、自分が虫になった様を見に来る人々が、」などでも可。

× 「自分が虫になったという噂を聞いて見に来る人々」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「家族の気持ちを理解し、」の要素に1点。

○ 「家族の不幸を理解し、」「家族の災難を分かり、」などでも可。

× 「家族の気持ちを理解」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「またお見舞いや餌代として家族にお金をおいていってくれるよう、」の要素に1点。

○ 「またお見舞いなどといってお金をおいていってくれるように、」「餌代などとしてお金を家族に渡してくれるように、」などでも可。

× 「お見舞い、あるいは餌代といってお金をおいていってくれる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④ 「ひたすら虫らしい様子を見せておこうと思う」の要素に1点。

○ 「一生懸命に虫らしく振る舞っておこうとする」「いかにも虫らしい行動をして

おこうと思う」などでも可。

× 「虫らしい様子をみせる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

**C 「気持ち。」(1点)**

※ B、Cをまとめる条件。

× 「気持ち。」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問三 7点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

父、母、妹の家族三人が働き始めて暮らし向きが楽になると、

ザムザのことを邪魔者扱

いをして、その存在を無視してピクニックに出かけたように、

B①〇一点

B②〇一点

ザムザに罐切りを取り行かせておいて、

いいなくなった隙に家族三人でお弁当を食べてし

X〈分析〓分けること〉〇一点

まうのではないかと、

C〇一点

Y〈総合〓まとめること〉〇一点

さすがにザムザも今は家族を疑ってしまっていたから。(7点)

【構造点】

・Xは、傍線部のザムザの行動の理由を、〈矛盾〉しない二条件A、Bの二段階に〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇一点

・Yは、条件A、Bを、条件Cに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここではA、Bの少なくとも一方の要素があり、かつCがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 〈Aの要素、Bの要素〉の少なくとも一方+C 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「父、母、妹の家族三人が働き始めて暮らし向きが楽になると、ザムザのことを邪魔者扱いをして、その存在を無視してピクニックに出かけたように、」(2点)

※ 傍線部の行動の理由説明するための一方の条件。

- ① 「父、母、妹の家族三人が働き始めて暮らし向きが楽になると、」の要素に1点。
- 「父母、妹の親子三人が働き出して暮らしが立つようになると、」「ザムザを除いた家族三人が職に就いて暮らせるようになる」と、「などでも可。
- × 「親子三人が働き、暮らしがよくなる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「ザムザのことを邪魔者扱いをして、その存在を無視してピクニックに出かけたうに、」の要素に1点。
- 「邪魔なザムザの存在を無視してピクニックに出かけたように、」「ザムザを邪魔者として無視し、ピクニックに行ったように、」などでも可。
- × 「ザムザを邪魔者扱いしてピクニックに行く」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「ザムザに罐切りを取り行かせておいて、いなくなった際に家族三人でお弁当を食べてしまうのではないかと、」(2点)

※ 傍線部の行動の理由説明するためのもう一方の条件。

- ① 「ザムザに罐切りを取り行かせておいて、」の要素に1点。
- 「ザムザに罐切りを取りに帰らせた後、」「ザムザを缶切り取りに向かわせて、」などでも可。
- × 「ザムザに罐切りを取りにいかせる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「いなくなった際に家族三人でお弁当を食べてしまうのではないかと、」の要素に1点。
- 「帰って来るまでに親子三人だけでお弁当を食べてしまうのではないのかと、」「戻る前に家族三人でお弁当を食べ尽くしてしまうのではないかと、」などでも可。
- × 「いなくなった際に親子三人でお弁当をたべてしまう」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「さすがにザムザも今は家族を疑ってしまっていたから。」(1点)

※ A、Bをまとめて、結論づける条件。

- 「今では家族を疑ってしまっていたから。」「もはや家族を信じられなくなっていったから。」などでも可。
- × 「家族を疑っていた」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問四 11点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

虫に変わってしまったが、本当は家族の一員であるザムザを

邪険に扱い、

B①〇一点

B②〇一点

また好奇心で見に来る人々には 見世物にして金儲けの種にし、

C①〇一点

C②〇一点

C③〇一点

さらに家族三人が働いて生活が楽になると、

余暇から除け者にし

挙句の果てに殺してし

X〈分析〓分けること〉〇一点

まうという、

D①〇一点

D②〇一点

傷を負った家族成員の世話を放棄し、虐待して殺害した

消えることのない罪の象徴として

Y〈総合〓まとめること〉〇一点

の意味。(11点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、条件A、B、Cの〈矛盾〉しない三条件に〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。ここでは、条件Aの要素、条件Bの要素、条件Cの要素の内二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加

X〈分析〓分けること〉〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二つ以上 〇一点

・Yは、A、B、CをDに〈総合〓まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここではA、B、Cの要素が二つ以上あり、かつDの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加

点。  
Y〈総合〓まとめること〉〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二つ以上+Dの要素 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また各条件内では要素同士において、部分採点可能。(9点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立してい

る場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「虫に変わってしまったが、本当は家族の一員であるザムザを邪険に扱い、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための一つの条件。

① 「虫に変わってしまったが、本当は家族の一員であるザムザを」の要素に1点。

○ 「虫に変態してしまっているものの、家族の一員であるザムザを」「虫の姿をしているとはいえ、家族の一員であることに変わりはないザムザを」などでも可。

× 「虫に変わってしまったが家族であるザムザ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「邪険に扱い、」の要素に1点。

○ 「邪魔者扱いし、」「厄介者扱いし、」などでも可。

× 「邪険な扱い」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「また好奇心で見に来る人々には見世物にして金儲けの種にし、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするためのもう一つの条件。

① 「また好奇心で見に来る人々には」の要素に1点。

○ 「噂を聞きつけてきた人々には」「興味津々で様子を見に来る人々には」などでも可。

× 「好奇心で見に来る人々」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「見世物にして金儲けの種にし、」の要素に1点。

○ 「見世物に出して金を儲け、」「見世物にして金儲けの手段にし、」などでも可。

× 「見世物にして金儲け」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「さらに家族三人が働いて生活が楽になると、余暇から除け者にして拳句の果てに殺してしまうという、」(3点)

※ 傍線部の理由説明をするためのさらにもう一つの条件。

① 「さらに家族三人が働いて生活が楽になると、」の要素に1点。

○ 「そして親子三人で働いて暮らしが楽になると、」「さらに父母と妹の三人が職に就いて暮らしがよくなると、」などでも可。

× 「家族三人が働いて生活が楽になる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「余暇から除け者にして」の要素に1点。

○ 「ピクニックに連れて行かず、」「余暇で遊ばせてあげない」などでも可。

× 「余暇から除け者」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「拳句の果てに殺してしまうという、」の要素に1点。

○ 「最後には殺してしまうという、」「結局は殺害してしまうという、」などでも可。

× 「拳句の果てに殺してしまう」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「傷を負った家族成員の世話を放棄し、虐待して殺した消えることのない罪の象徴としての意味。」(2点)

※ A、B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「傷を負った家族成員の世話を放棄し、」の要素に1点。

○ 「傷ついた家族の面倒をみることなく、」負の印を受けてしまった家族成員をないがしろにして、」などでも可。

× 「傷ついた家族の世話を放棄」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「虐待して殺した消えることのない罪の象徴としての意味。」の要素に1点。

○ 「いじめ殺したという拭うことの出来ない悪の印としての意味。」虐待した上に殺害したという罪の刻印としての意味。」などでも可。

× 「虐待して殺した罪の象徴」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

★2021年度第一回 阪大本番レベル模試(文)

目 (古文『落窪物語』) 採点基準

※ 40点満点

問一 (ア) 傍線部の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

「傍線部」

「模範解答」

A2	A2
----	----

疲れてしまった。

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】 困じにたり ↓ 疲れてしまった

※ 「疲れる・疲労困憊する」の意がない場合は×。「困る・戸惑う」等は×。

※ 「疲れた」でもよい。

※ 「疲れる・疲れてしまう」は【1点】。

※ 解答の末尾の句読点の有無は不問。



問一 (イ) 傍線部の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕

A2 かたち

〔模範解答〕

A2 顔立ち

採点方法 各要素単独採点。  
字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A〔2点〕 かたち ↓ 顔立ち

※「容貌・顔・容姿・姿・器量」でもよい。

※「見た目」は〔1点〕。

※「身なり」は×。

※解答の末尾の句読点の有無は不問。

問一 (ウ) 傍線部の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕 人もこそ聞け。

〔模範解答〕

A	A
2	2

人が聞いたら困る。

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A〔2点〕人もこそ聞け ↓ 人が聞いたら困る

※ 「人が」は「誰かが・他人が」でもよく、「聞かれる」につながる場合は「人に・誰かに・他人に」でもよい。

※ 「聞いたら」は「聞くと」でもよく、「人に・誰かに・他人に」からのつながりであれば「聞かれたら・聞かれると」でもよい。

※ 「困る」は、困惑や不安を表していれば「大変だ・いけない・まずい」等でもよい。

右の意がない「人が聞いているかも知れない」などは×。

※解答の末尾の句読点の有無は不問。

問二 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 7点

「傍線部」

A I なほ

B I 縫ひさして

C I 臥したまひて、

D I 北の方、

E I 例の

F 2 腹立てたまへ

「模範解答」

A I やはり

B I 縫い物をするのは途中にして、

C I お休みになって、

D I 北の方は、

E I い

つものように F 2 腹を立てさせておきなさい

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。  
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

「ポイント」

要素 A 【1点】 なほ ↓ やはり

※「それでも・やっぱり」でもよい。「さらに・もっと・なお・もう」等は×。

要素 B 【1点】 縫ひさして ↓ 縫い物をするのは途中にして

※「縫うのを途中にして・縫うのをやめて」の意があればよい。

要素 C 【1点】 臥したまひて、 ↓ お休みになって、

※「寝る・横になる・休む」の意＋尊敬（おくになる・くなさる）の意があればよい。尊敬の意がない場合は×。

要素 D 【1点】 北の方、 ↓ 北の方は、

※ F が 0 点 の 場 合 は 得 点 で き な い 。 （ た だ し 、 誤 字 等 で 0 点 に な っ て い る 場 合 は 除 く ）

※「母上は・義母は」等でもよしとする。

※「は」は、文意が通れば「を・には」等でもよい。

要素 E 【1点】 例の ↓ いつものように

※「例によって」でもよい。「いつもの・いつものような」等、連用修飾語になっていない場合は×。

要素 F 【2点】 腹立てたまへ ↓ 腹を立てさせておきなさい

※「腹を立てる・怒る・機嫌を悪くする」＋使役（くさせる）＋命令（くしろ）・適当（くのがよい）＋尊敬（くなさる・おくになる）で【2点】。  
「くなさい・くしてください・くなされ・おくになれ」とあれば、これで「尊敬＋命令」となる。

※使役の意が明らかでない「腹を立てたままにしておきなさい・腹を立てたままにしておきなさい」がよい等は【1点】。  
「い」等は【1点】。

※尊敬の意がない「腹を立てさせておけ・腹を立てさせておくのがよい」等は【1点】。

※使役も尊敬の意もない「腹を立てたままにしておけ・腹を立てたままにしておくのがよい」は×。

問三 傍線部に見られる危惧を、北の方はどのように回避しようと考えているのか、説明しなさい。

基準 配点 8点

「傍線部」 危ふくて

「模範解答」 A2 中納言(夫)には、女君が帯刀と関係を持ったと作り話をして、B2 高貴な男性が通っていることを隠し、C2 少将が女君を忘れるように、D2 女君を部屋に閉じ込めて少将と会わせないようにしようと考えている。

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。  
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

「ポイント」

※ 「中納言に事実(女君が高貴で優美な男性と交際している)を伝えると、正式な結婚としてしまうのではないか」という「危惧」の内容の有無は不問。

要素A【2点】中納言には、女君が帯刀と関係を持ったと作り話をして

※ 「中納言」は「夫・おとど」でもよい。これが明らかでない場合は、【1点】。

※ 「女君が」は、他の箇所書かれていて解答全体の流れ(文意)から読み取れれば、この箇所になくてもよい。

※ 「帯刀」は「侍女のもとへ通っている男」もしくは「身分の低い男」でもよい。

※ 「関係を持った」は「(男が)通ってきている・(男と)逢っている・親しくしている・恋愛関係にある」等でもよい。

※ 「作り話をして」は「嘘を言い・言って・伝えて」等でもよい。

要素B【2点】高貴な男性が通っていることを隠し、

※ 「高貴な男性」は「少将・身分の高い人・立派な男」などでもよい。

※ 「通っている」は「(男と)関係がある・(男と)逢っている・親しくしている・恋愛関係にある」も可。

※ 「隠し」は「伏せ・内緒にし・知らせず」等でもよい。

※ 要素Aからの流れで「(通っているのは)少将ではなく」といった表現になってもよい。

要素C【2点】少将が女君を忘れるように、

※ Dが0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※ 要素Dの目的が「女君を忘れさせること」にあることが説明されていればよい。

※ 「女君を」は「女君の存在を・女君に対する恋心を」等でもよい。

※ 要素Cと要素Dの説明の順は、「女君を部屋に閉じ込めて、少将に女君を忘れさせようとした」も可。

※ 「少将」は「通ってきている男・交際の相手」などでもよい。

※ 「少将(通ってきている男・交際の相手)」が明らかでない場合は【1点】。

要素D【2点】女君を部屋に閉じ込めて少将と会わせないようにしようと考えている。

※ 「女君を部屋に閉じ込めておこうとしている」の意があればよい。

※ 「部屋に」が明らかでない場合は【1点】。

問四 傍線部には、誰のどのような心情が記されているか、説明しなさい。

基準 配点 7点

〔傍線部〕 本意なき心地

〔模範解答〕 **A1**北の方の、**B2**縫い物が出来ていないことで女君をひどく叱責しようと意気込んでいたのに、**C2**見事に出来ていたため、**D2**不本意に思う心情。

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、**〔条件〕**がある場合は、それに従って下さい。  
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

〔ポイント〕

要素**A**【1点】北の方の、

※**D**が0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「北の方」は「継母・義母」でもよい。「母」でもよしとする。

※解答全体から、説明されている心情が「北の方(義母)」のものであるとわかれば、「の」がない別の表現でもよい。

要素**B**【2点】縫い物が出来ていないことで女君をひどく叱責しようと意気込んでいたのに、

※**D**が0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「女君を叱責しようとしたができず」の意が解答全体から読み取れば【1点】。

※右の意がある上で、「縫い物が出来ていないことを理由に」の意が解答全体から読み取れば【2点】。

要素**C**【2点】見事に出来ていたため、

※**D**が0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「縫い物ができていたので」の意が解答全体から読み取ればよい。

要素**D**【2点】不本意に思う心情。

※「不本意に思う」は「残念に思う・がっかりする・拍子抜けする・思惑が外れる・不満に・不服に・もの足りなく・気が晴れない・気がおさまらない・気が済まない・やきもきする・腹の虫が治まらない・面白くない・歯痒く・忌々しく」でもよい

※右の意がない「つまらなく思う・味気なく・空回りする・嫌に・納得がいかない・もどかしい」は【1点】。

問五 傍線部の歌のやりとりはどのようなものか、各歌の詠み手を明らかにしながらその内容を説明しなさい。

基準 配点 12点

〔傍線部〕

(A1)

(B2)

これらもなほあだにぞ見ゆるC1 笛竹の手馴るるふしを忘ると思へば  
あだなりと思ひけるかなG3 笛竹の千代もねだえむふしはあらじを

(D2)

〔模範解答〕

A1 女君が B2

「二人の仲はかりそめのものに思われる。」

C1 手に馴染んだ笛さえ忘れる

あなたは、D2 私のことなど当然忘れるだろうから」と詠んだのを受けて、E1 少将が F2 「あなたは二人の仲をかりそめのものだと言うが、G3 私は永遠に二人の関係を絶やすつもりはない」と応じている。

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。  
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

〔ポイント〕

要素A【1点】女君が と詠んだのを受けて、

※BもDがいずれも0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「これもなほ」(傍線部(d))の歌の詠み手が「女君」と分かればよい。

※「女君」は「姫君・女・女性」でもよしとする。

要素B【2点】「二人の仲はかりそめのものに思われる。」

※「二人の仲はいいかげんだと思われる」、または、「あなたは浮気者だと思われる・あなたの気持ちはいいかげんだと思われる」等でもよい。

※右の意はないが、「女君は少将の気持ちを疑っている」の意が読み取れる内容(説明)がある場合は【1点】。

要素C【1点】手に馴染んだ笛さえ忘れるあなたは、

※BもDも0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「馴れた笛を忘れるのだから」の意があればよい。「馴染んだ・馴れた・慣れ親しんだ」等がない場合は×。

※「笛」は「笛の節・笛の曲・笛で吹く音楽」等でもよい。

要素D【2点】私のことなど当然忘れるだろうから

※「私のことを忘れるだろう」の意があればよい。

※「私」は「私たちの仲・私とあなたの仲」等でもよい。

要素E【1点】少将が と応じている。

※F・Gがいずれも0点の場合は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「あだなりと」(傍線部(e))の歌の詠み手が「少将」と分かればよい。

※「少将」は「男君・男・男性」でもよしとする。

要素F【2点】「あなたは二人の仲をかりそめのものだと言うが、

※要素Bができていて「二人の仲をかりそめのものだ」と言っている(思っている)主体が女君であると分

かれば、「あなたは」はなくてもよい。

※「二人の仲をかりそめのものだ」は、「二人の仲はいいかげんだ」、または、「私を浮気者だ・私の気持ちはいいかげんだ」等でもよい。

※また、「少将は女君の不安に反論している・少将は女君の疑念を受け流している・少将は女君に二人の仲を疑わないでほしいと言っている・少将は女君に自分を疑わないでほしいと言っている」等でもよしてする。

**要素G【3点】**私は永遠に二人の関係を絶やすつもりはない」

※「笛の音も絶えないように」と言う内容の説明の有無は不問。

※「二人の愛は永遠だ・私の気持ち（愛情）は絶えることがない」の意が読み取ればよい。

第一回 阪大本番レベル模試 漢文 採点基準 (35点)

※要素別に採点する場合、各要素の最低点は0点とする(減点の結果、ある要素が0点以下になってもその要素は0点)。

大問四 問一

基準 配点:5点

■形式上の不備

- ・送り仮名を一カ所でもつけているものは、送り仮名が正しい場合も正しくない場合も、**問一全体から減点4点。**
- ・漢字に読み仮名を一カ所でもつけているものは**問一全体×(問一〓0点)。**

■模範解答

太宗 欲下 以ニ 韋 宣州 温一 為 中 翰林 学 士 上

。

■採点方法

- ・返り点が一カ所でも間違っているものは**問一全体×(問一〓0点)。**



基準 配点：6点

■形式上の不備

- ・句点の有無は不問。
- ・『先父遺命』とはどのような内容であったか」という問いにそぐわない表現がある場合は全体から**1点減点**。「〜」という内容の(父の)遺言」「〜」という(父の)遺言」「遺命とは(父の)遺言のことです、〜」という内容「のような答えかたであれば可」。

■模範解答 ※同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

A 5点

翰林学士になつてはならないという

B 1点

遺言。

■採点方法 各要素単独採点

要素A「遺命」の内容＝翰林学士に(は)なつてはならない 5点

- ・翰林学士になつてはならない」「翰林学士になるな」の意味の表現であれば可。
- ・翰林にいてはならない」「翰林にいさせない」のように「翰林」が「翰林学士」という官職であることが明確でないものは**要素A 2点減点**。
- ・「〜てはならない」「〜するな」の禁止表現がないものは**要素A 3点減点**。

要素B「遺命」の意味＝遺言 1点

- ・「遺言」という語を用いなくても、「亡くなった父からの命令」のように、死んだ人から、生き残る者への命令・教えであることが表現されていれば可。
- ・単なる「命令」「父からの命令」などは**要素B × (要素B = 0点)**
- ・父からの遺言」「父から韋温への遺言」などの補いがあるものも可。ただし、「父から」「韋温へ」の部分が誤っているものは**要素B × (要素B = 0点)**。

基準 配点：7点

■形式上の不備

- ・句点の有無は不問

■模範解答

どうしてこれを道理にかなったことと言えようか、いや、言えない。

\*要素A どうして〜か、いや、〜ない 3点

\*要素B これを〜1点

\*要素C 道理にかなったこと 1点

\*要素D 言え(る) 1点

■採点方法 各要素単独採点

要素A「豈〜乎」の解釈 どうして〜(だろう)か、いや、〜ない 3点

・「〜である」は「〜でないことはない」「も可とする。

・「〜どうして〜(だろう)か」がなく、「〜ない」のみは可とする。

・「〜どうして〜(だろう)か」のみで、「いや、〜ない」がないものは**要素A 1点減点**。

要素B「之」の解釈 1点を 1点

・「これが」も可。

・「それを」「それが」も可とする。

・「之」の内容を具体化している場合、次の内容であれば可。

\*道理に反する「おかしな」遺言「命令」

\*翰林学士になつてはならないという遺言

\* (韋温が父の)道理に反する「翰林学士になつてはならないという」遺言に従っていること  
[この場合、「道理に反する(おかしな)」「翰林学士になつてはならないという」の要素を

欠いている場合は**要素B×(要素B=0点)**。

要素C「理」の解釈 1点を 1点

・「道理」「道理に合うこと」なども可。

・「と」を欠いているものは**要素C×(要素C=0点)**

要素D「謂」の解釈 2点を 2点

・「謂」 2点

・「言える(言うことができる)」「の、可能を表す表現がなく」「言つ」「思つ」「考える」のみであ

るものも可とする。

(例)「どうしてこれを道理にかなったことと言っただろうか、いや、言わない」は減点なし。

基準 配点：7点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は不問

■模範解答

A 2点

いは(わ)んや

B 1点

よくらんめいをうけて

C 1点

あらためざるもの

D 2点

をや

■採点方法 各要素単独採点

要素A 「況」の読み方い(わ)はんや 2点

- ・「いはんや」「いわんや」のみ可。

- ・他の読み方をしているものは要素A×(要素A=0点)

要素B 「能(亂)乱命(而)」の読み方よくらんめいをうけて 1点

- ・「能」を「よく」以外で読んでいるものは要素B×(要素B=0点)

- ・「乱命」を「らんめい」以外で読んでいるものは要素B×(要素B=0点)

- ・「をうけて」「は、

」をうけ」も可。

」をうくれども」「をうくれど」「をうくるも」も可。

他の読み方は要素B×(要素B=0点)

(「うけれど」「も」「うけど」「も」「うけるも」などは×)

要素C 「不改者」の読み方あらためざるもの 1点

- ・「あらためざるもの」も可とする。

- ・他の読み方をしているものは要素C×(要素C=0点)

要素D 文末の「をや」=2点

- ・「をや」が欠けているもの、他の送り仮名を補っているものは要素D×(要素D=0点)。

大問四 問五

基準 配点…10点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。
- ・文末表現は基本的には問わない。ただし、「なぜか」という設問にそぐわない文末表現は**全体から1点減点**。
- ・「韋温」に全く触れていない場合は全体から2点減点。

■模範解答

A ○3点

父からの、道理に反する遺言に従っている韋温は、

B ○1点

道理になかった遺言に従う者以上に

C ○2点

この上ない孝心の持ち主であるという

D ○2点

崔蠡の説明に納得し、

E ○2点

その孝心を尊重したほうがよいと思ったから。

■採点方法 各要素単独採点

要素A 父からの道理に反する遺言に従っている韋温は 3点

・「父からの」「父の」の要素を欠いているものは**要素A 1点減点**。

・「父」は「親」も可とする。

・「道理に反する」は「道理に合わない」「おかしな」なども可。

・「遺言」は「命令」なども可。

・「道理に反する」要素を欠いているものは**要素A 1点減点**。

・「従っている」は「従う」「守る」なども可。

- ・「従う」「守る」要素がなく、「改めない」「変えない」のみであるものは**要素A 1点減点**。
- ・「韋温」がなく、「従うのは」「従う者は」のような表現でも可。

要素B 道理にかなった命令に従う者以上に 1点

- ・「道理にかなった命令に従う者も(この上ない)親孝行だ(だが・だから)」の意でも可。

要素C (韋温は(この上ない孝心の持ち主であるという) 2点

- ・「孝心の持ち主」は「親孝行である」「親を大切にする」の意が表現されていれば可。
- ・「孝心」にふれず、「すばらしい」「ほめたたえるべきだ」のような内容にしているものは**要素C 1点減点**。

- ・要素Bまたは要素Cのどちらかで、「この上ない」「たいへんな」の要素を欠いているものは**要素C 1点減点**。

要素D 崔蠹の説明に納得し 2点

- ・「崔蠹」は、「崔」「蠹」「臣下」なども可。
- ・「誰の」の要素がないものは**要素D 1点減点**。
- ・「説明」は「言葉」「言ったこと」なども可とする。
- ・「納得し」は、「その通りだと思いい」「聞き」なども可。
- ・「崔蠹の説明」の要素がなく、単にA～Cの内容を「納得した」「理解した」としてしているものは**要素D 1点減点**。

要素E その「**韋温の**」孝心を尊重したほうがよいと思った 2点

(別解)

その「**韋温の**」決意を変えることはできないと思った 2点

- ・「孝心」「決意」は「気持ち」「思い」なども可。
- ・「韋温を翰林学士にしないことが彼の孝心を尊重することになると思った」または「韋温を翰林学士にすることは彼の孝心を否定することになると思った」または「この上ない孝心の持ち主である韋温が父の命令に背くことはありえないと思った」ことが読み取れる表現があれば可。
- ・韋温が孝心を持っていることが、なぜ彼を翰林学士にしない「しないほうがよい・することはできない」ことにつながるのかを説明できていない場合は**要素E 1点減点**。
- ・「(文宗は)思った」「考えた・判断した」の要素を欠いているものは**要素E 1点減点**。